



享月 日 業庁

第3種郵便物認可

# 歴史・郷土に関心を そして思いやる心を

著者は県立太宰府高  
校教諭の占部賢志さん  
(52)。  
6部で構成している。  
1部の「世界と日本」で  
は、1890(明治23)  
年、和歌山県沖で遭難し  
たトルコ船の乗組員を  
島民が決死の覚悟で救  
助し、大正時代には日本  
赤十字社がボートランド  
人孤児765人を救った  
ことを紹介。ともに数  
十年後、両国民の交流  
につながったとしてい  
る。

2部の「郷土再発見」  
では、1868〜69(明  
治1〜2)年の北海道・  
箱館の五稜郭の戦いで、  
赤十字活動の精神を実  
践した小郡市出身の医師

福岡市の福岡北ロータリークラ  
ブ(村上泰之会長、64人)が、創  
立20周年の記念冊子「子どもたち  
へ」歴史に学ぶ思いやりの心」を  
発行した。日本人の献身的な行為  
が世界の人たちの心をとらえた例  
や県人の一途な努力を、小学校高  
学年向けに分かりやすく説明して  
いる。7日、市内のホテルで開く  
記念式で披露し、市内144の全  
小学校と養護学校3校に配る。

## 福岡北ロータリー記念冊子

## 児童向け 教諭執筆



「無名の人々の生き様からも、思い  
やりの心を学べる」と話す占部教  
諭—太宰府高校で

高松凌雲や、冬の富士  
山頂で気象観測に挑ん  
だ福岡市出身の野中到、  
千代子夫妻を紹介。勇気  
ある行為が今の指針と  
なっている、と伝えてい  
る。

占部さんは「今の子は  
人物への関心が希薄のよ  
うだが、歴史には素晴ら  
しい話が埋もれている。  
冊子から思いやりの心を  
くみ取ってほしい」と話  
している。

同クラブは昨年夏、占  
部さんを定例会に招き、  
歴史教育などの話を聞  
き、執筆を依頼した。冊  
子はA5判、107ページ。  
1万3千部発行した。





# 先人の業績、歴史学ぼう

## 子ども向け読本 小学校に配布へ

### 福岡北七作製

### 福岡北ロータリークラブ

（福岡市中央区、村上）は、クラブ創立二十周年を記念して作られた。将山で気象観測に挑んだ野生向けの歴史読本「子ども向け」を、来を担う少年たちに「他中、千代子夫妻（福岡

もたちへ―歴史に学ぶ思人への思いやりと日本人の思いやりを一万三千として誇り―を持つて、郷土の先人の業績を六話の読み物にした。明治時代に厳冬の富士山で気象観測に挑んだ野生向けの歴史読本「子ども向け」を、来を担う少年たちに「他中、千代子夫妻（福岡市出身）などのエピソードが登場する。著者は太宰府高校の占部賢志教諭（日本史）で、福岡市教委も刊行に協力した。同クラブは七日の二十周年記念式で市教委に読本を贈る。読本の問い合わせは、福岡北ロータリークラブ（092-715）6660。

西日本新聞 2003.6.7 朝刊

## 春秋

若い人、とくに子どもたちは、自分が生まれた町や村のこと、古里が生んだ人たちのことを、どれくらい知っているだろうか▼明治時代に野中到という男がいた。いまの福岡市で生まれ育った。一八九五（明治二十八）年、自分のお金で富士山頂に気象観測小屋を建て、観測を始めた。二十九歳の冬だった▼天気を正確に予報するには、できるだけ高い場所、極寒でも観測データを収集しなければならぬ。国には資金の余裕がなかった。「だから自分が」と日本一高い山での挑戦を思い立った▼風力計も凍りつくほどの寒さのなか、しかもひとりぼっち。体を気づかす二十四歳の妻千代子は、じつとしておれなく

なつた。子どもを福岡の実家にあずけ、ある日突然、山に登った。「そばにいて手伝いたい」の一心だった▼日本の高山気象観測の開拓者として、野中到の業績は褒章の対象になった。小説にも描かれた。褒章は受けず、小説にも不満だったという。自分一人の業績のようになっているからだ。「千代子がいなければできなかった」。そう思い続けた▼以上、冊子「子どもたちへ―歴史に学ぶ思いやり―」の一節。福岡県立太宰府高の占部賢志教諭が執筆した。ほかにいろいろな人が出てくる。福岡市の福岡北ロータリークラブが創立二十周年記念に出版した。「胸にしまいこんだ日本人の誇り」（冊子から）を引き継ぎたい。市内の小学校などに配られる。

西日本新聞 2003.6.16 朝刊